

女性医師支援センター便り

「地域における女性医師支援懇談会」および 「女性医師等キャリア支援連絡協議会」のご報告



宮城県女性医師支援センター委員
東北大学病院女性医師支援推進室長
藤原 実名美

平成31年1月12日土曜日に、宮城県医師会館にて標記会合が連続開催されました。前半は日本医師会女性医師支援センター主催、後半は東北大学病院主催、いずれも宮城県女性医師支援センターとの共催で、宮城県医師会には多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

地域における女性医師支援懇談会は、日本医師会の掲げる202030運動の一環として開催され、宮城県女性医師支援センター長である高橋克子先生のご挨拶と日本医師会女性医師バンクの紹介から始まりました。福與なおみ先生の司会進行のもと、女性医師がキャリアアップして指導的立場になるにはどうしたらいいかなどについて、それぞれの経験をもとに参加者14名全員が意見を述べ、佐々木悦子先生のご挨拶で会を閉じました。



女性医師等キャリア支援連絡協議会は、一般社団法人全国医学部長病院長会議（AJMC）が今年度の厚生労働省の委託として採択された事業の遂行のため、各県の幹事大学に開催を要請されたものです。女性医師の増加によって、また女性医師以外でもライフイベントによるキャリアの継続困難が見られる中で、働き続けていけるように大学病院や医療機関はそれぞれ工夫されています。都道府県規模での会議体を開催し、意見交換を実施してAJMCに報告して取りまとめ、効果的な女性医師等のキャリア支援モデルを普及推進する、という流れですが、宮城県では宮城県女性医師支援センターが以前より活発に活動していたこともあり、地区懇談会に引き続いて本会を開催させていただきました。

宮城県女医会から岩崎恵美子先生、仙台市医師会から男女共同参画委員の大瀧正子先生、山根由理子先生、森川みき先生、宮城県女性医師支援センター委員、医療機関としては東北大学病院、

東北医科薬科大学病院，宮城県立がんセンター，仙台医療センター，仙台赤十字病院，東北公済病院からご参加をいただき，宮城県保健福祉部医療人材対策室医療環境整備班長ほか数名の先生がオブザーバーとして臨席されました。

それぞれが，現在の職場（現在開業中の場合は以前勤務していた職場）における，（１）女性医師に対する職場の理解の有無（２）女性医師の相談窓口の有無（３）ライフイベントを理由とした場合の勤務体制や診療体制の多様性の有無（４）院内の保育環境（院内保育，院内病児／病後児保育室，学童保育）の有無（５）復職支援の有無（６）（１）～（５）を踏まえてこれから希望することについて，現状や意見を述べました。勤務体制としては，短時間勤務や当直免除はいずれの施設でも取り組みがありました，ユニークな取り組みとしては，仙台赤十字病院の産婦人科で変則勤務を男女ともに取り入れて，出産後子育て中の女性医師が経験を積みながら職場に貢献できる仕組みを作っており，全国的にも珍しいと思われました。また，これから改善を希望されることとして挙げられた内容を一つご紹介すると，大学の医員が日々更新の日雇いであるため，一般的な労働環境では認められる産休・育休を取れる仕組みがないということでした。また，大学院生の場合，診療に従事していても認可保育園への入所は，フルタイム勤務者に比べ認められにくいことも挙げられました。そのほか直接語り合わなければ分からない各施設の状況に，驚いたり感心したり，笑いが起こったりの和やかな雰囲気の中で，これから取り組む課題の大きさも見え，今回生まれたつながりを単発にせず，これからも交流・協力していくことを約束し，閉会しました。

